

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【有田振興局】有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

令和8年3月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 普及活動実績報告会を開催	
2. カローリングで農業者間の親睦と健康増進を！！	
3. ピーマン栽培における土着天敵タバコカスミカメの導入効果試験を実施	
II 那賀振興局	3
1. 那賀地方農業士協議会が研修会を開催	
2. 紀の川環境保全型農業グループが研修会・総会を開催	
III 伊都振興局	4
1. 橋本市農業士会研修会を開催	
2. 河南地区農産物加工販売組合総会・講演会を開催	
IV 有田振興局	5
1. 普及指導計画実績検討会を開催	
2. 有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催	
V 日高振興局	6-7
1. 農トレひだか第2回セミナーを田辺市で開催	
2. 日高果樹技術者協議会が県内研修会を開催	
3. みなべ町農業士会がクビアカツヤカミキリ対策研修会を開催	
4. 農トレひだか第3回セミナーをひなたの杜で開催	
VI 西牟婁振興局	8
1. 普及指導協力員との意見交換会を開催	
2. スモモジョイント栽培の連結処理講習会の開催	
VII 東牟婁振興局	9
1. イチゴの収穫及びパック詰め体験を実施	
2. 北山村でじゃばら幹腐病対策技術実証ほを確認	

I 海草振興局

1. 普及活動実績報告会を開催

和海地方総合農政推進協議会（会長：尾花正啓氏、構成：管内各市町、JA、農業共済組合）は、3月26日、海南nobinosにおいて、普及活動実績報告会を開催した。

初めに農業水産振興課職員から令和7年度の普及活動実績として、重点課題の「若手生産者を中心としたいちご産地の再興」、一般課題の「日本農業遺産みかん・びわ産地の振興」、「地域で守る農業を目指して」について説明した。続いて、同年度の協議会事業を報告し、最後に各参加者の現状や今後の取組などについて意見交換を行った。

参加者からは「高齢化による離農が新規就農者を上回り、水田裏作などの栽培面積が減少している現状を受け、新規就農者の確保育成に向けた県の支援強化を期待する」等の意見があった。

当課では、寄せられた意見を踏まえて、来年度も関係機関と連携し、普及活動に取り組んでいく。



普及活動実績報告

2. カローリングで農業者間の親睦と健康増進を!!

3月10日、農業水産振興課は、スポーツを通じて相互の親睦と農業や生活の情報交換及び健康増進を図ることを目的に、海南市総合体育館においてカローリング^{注)}大会を実施した。

本大会は農業者交流会として30年前から実施している。参加した農業士会、生活研究グループ連絡協議会、青年農業経営者協議会、4Hクラブ連絡協議会の会員は、日頃農業で鍛えた体幹と繊細なタッチ、戦略的な思考、そして仲間との連携により熱戦を繰り広げた。本年度は12チームが参加し、紀美野町農業士チームが見事優勝した。

農業水産振興課では、農業において世代間交流が少なくなっている昨今、これからも様々な機会を通じて農業者間の情報交換や交流促進をサポートする。

注) カローリングとは、氷上で行う「カーリング」にヒントを得て平成5年に生まれたインドアスポーツで、ジェットローラーをポイントゾーンに向かって滑らせるように投擲し、獲得した得点を競い合う。



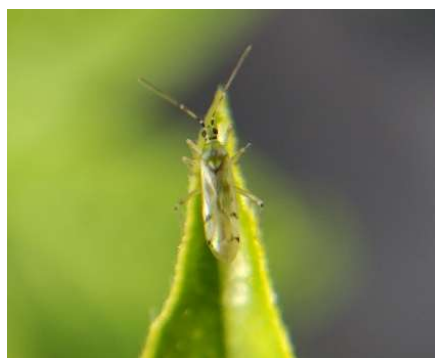
カローリングを楽しむ農業者

3. ピーマン栽培における土着天敵タバコカスミカメの導入効果試験を実施

管内のピーマン栽培において、コナジラミ類やアザミウマ類に対する殺虫剤抵抗性の発達が問題となっている。そこで農業水産振興課では、令和6年度から和歌山市内のピーマン栽培ハウスにおいて、タバココナジラミタイプQやヒラズハナアザミウマの天敵であるタバコカスミカメの効果試験を行っている。

11月にタバコカスミカメ1,000頭を採取し、温存植物であるクレオメを使ってハウス内で増殖を図ったが、植え付け時期までに分散してしまった。再度、2月に新たに採取したタバコカスミカメ1,000頭をクレオメとともにピーマンハウスに導入し、14日ごとにタバコカスミカメの増殖数、アザミウマ等害虫の発生量及びピーマンの被害状況について調査を行うことで効果を検証している。

今後も調査を実施し、栽培講習会等で成果を活用していく予定である。



タバコカスミカメ



タバコカスミカメの調査風景

Ⅱ 那賀振興局

1. 那賀地方農業士協議会が研修会を開催

3月6日、那賀地方農業士協議会(会長:小川真司氏)は、農家が抱える身近な課題をテーマに研修会を開催し、会員19名が参加した。今年度は、節税対策や雇用、補助事業等の情報提供と座談会を行った。

節税対策については、(一社)和歌山県農業会議 農業者年金総合指導員の向井元治氏から農業者年金の概要を説明いただいた。また、小規模企業共済制度やiDeCoに実際加入している会員から制度の内容やメリット等情報提供が行われた。

農業の法人化については、農業会議の田村健伍氏から説明があり、会員から法人の形態等の質問があがった。また、雇用については、会員が実際に活用した求人方法や所感に関する活発な意見交換が行われた。



研修会開催



座談会の様子

2. 紀の川市環境保全型農業グループが研修会・総会を開催

3月27日、令和8年度紀の川市環境保全型農業グループ(会長:小林元氏)は、総会・研修会を開催し、会員41名が出席した。議案はすべて原案どおり可決された。

総会後の研修会は、「金持ち農家の経営戦略～2050年に生き残る農家と生き残れない農家」と題して、合同会社アグリビジネスパートナー 高津佐和宏氏の講演をオンラインで開催した。グループ討議をはさみつつ、講師から「資金の流れを知り、逆算して経営計画を立てること」、「生産性を上げるために整理整頓を徹底すること」、「数字ですべてを把握すること」等、安定した経営を続けるためのポイントが挙げられた。

参加者からは人件費の割合や変動費・固定費の分類方法について質問があがった。



研修会



グループ討議

Ⅲ 伊都振興局

1. 橋本市農業士会研修会を開催

3月10日、橋本市農業士会（会長：中山英明氏）は橋本市保健福祉センター多目的ホールにおいて、橋本市農業士会研修会を開催した。会員のほか、伊都地方農業士会連絡協議会会員、橋本市認定農業者協議会会員、新規就農者ら23名が参加した。

近年問題となっている果樹の高温障害をテーマに、「かきの生育と高温に対する対応策」及び「ももの果肉障害」について、かき・もも研究所の熊本主任研究員及び古田主査研究員からそれぞれ講演いただいた。

かきでは高温の影響により着色遅延や日焼け及び軟化の増加が見られており、それぞれの対策について紹介があった。また、ももでは生理障害のメカニズムや対策技術について説明があった。その後、参加者から土壌改良資材の効果等について質疑応答が行われた。



研修会の様子

2. 河南地区農産物加工販売組合総会・講演会を開催

3月5日、かつらぎ町河南地域交流センターにおいて、河南地区農産物加工販売組合（会長：木多浦清子氏）総会及び講演会が開催され、会員23名が出席した。

総会では、会長及び来賓あいさつのあと議事に入り、全ての議案が原案通り可決、承認された。

その後、講演会が行われ、かき・もも研究所の古田主査研究員からみつ症対策及び核割れ対策について講演いただいた。みつ症対策としては、着果を多めにすることや土壌水分管理のためマルチ敷設するなどについて紹介があった。参加者からは、EM菌の活用や近年問題となっているクビアカツヤカミキリ対策について質問があり応答が行われた。



講演会の様子

IV 有田振興局

1. 普及指導計画実績検討会を開催

3月11日、有田振興局農業水産振興課では、普及指導協力委員7名に対して令和7年度の普及指導計画活動の実績報告を行った。

重点課題「有田みかん産地 産地受入協議会を軸とした新規就農者の確保および育成支援」について、千賀主査から、管内4市町すべてで産地受入協議会を設立し就農希望者を研修生として受入れていることや、新規就農者への技術研修会や個別面談を実施していることを報告した。委員からは、国及び県の新規就農施策に関する質問や、親元就農者への支援強化や第三者継承の仕組みづくりなどへの意見があった。

また、一般課題の「新品種・新技術導入による「有田みかん」のブランド力強化」を大橋普及指導員、「環境保全型農業の推進」を山本技師が報告し、みかん新品種'あおさん'の早期産地化や現場で実践されている優れた栽培技術の共有などについて意見が出された。



重点課題の発表

2. 有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

3月9日、標記研修会が会員34名参加のもと開催された。有田管内の優良企業の商品開発・販売等について学ぶため、株式会社橘家を訪れ、橋爪代表取締役から、同社の歴史や名物商品「おっぱ寿司」の商品開発について説明を受けた。

その後、株式会社早和果樹園を訪れ、秋竹会長から同社の取り組みについて説明を受けたのち、直営ショップやカフェを見学した。

参加者からは「昔から知っている地元の企業だが、会社の歴史や商品への思い、商品開発や発売後の苦労話、工夫点なども聞くことができ、大変有意義な研修会だった」等の感想が聞かれた。



橋爪代表取締役の説明を聞く会員



直営ショップを見学する会員

V 日高振興局

1. 農トレひだか第2回セミナーを田辺市で開催

3月6日、農業水産振興課は、環境保全型農業の先進的な取組や技術等の習得を目的に農トレひだか第2回セミナーを田辺市秋津川の田中 稔氏のうめ園地で開催し、生産者や関係者など15名が参加した。

はじめに、園地での栽培概要や有機JAS、スピードスプレーヤーでの防除管理などについて説明を受けたのち、園地の見学を行った。その後、倉庫内での収穫果実の管理方法や販売方法などの説明を受けた。受講者の中からは、有機JAS栽培に取組み始めたきっかけや、経営上のメリットなどについて質問があった。

当課では、引き続き、関係機関と協力しながら環境保全型農業の推進に努めていく。



セミナーに参加した生産者

2. 日高果樹技術者協議会が県内研修会を開催

3月9日、日高果樹技術者協議会（会長：柏木雄人氏）は、日高地方での熱帯果樹の普及可能性の検討やみかん篤農家の栽培技術の習得を目的に県内研修会を開催し、会員など17名が参加した。

研修会では、アボカドをはじめとした熱帯果樹の導入に先進的に取り組んでいる海南市の橋爪農園（代表：橋爪道夫氏）とマンゴーをはじめとした熱帯果樹の研究施設のある近畿大学附属湯浅農場を見学した後、湯浅町のみかん篤農家の勘佐寿人氏によるせん定講習を受講した。

会員からは、熱帯果樹栽培における暖房設備導入コストに関する質問があった。また、勘佐氏から昨今の気候変動により、高品質なみかんの生産が年々難しくなっている実情が説明された。

当課では、引き続き、関係機関と協力しながら気候変動に対応した品目の探索、栽培技術情報の収集を行う。



アボカドの品種毎の特性を聞く会員



みかんのせん定講習を受ける会員

3. みなべ町農業士会がクビアカツヤカミキリ対策研修会を開催

3月18日、みなべ町農業士会（会長：山崎真一氏）は、みなべ町農業振興協議会（会長：廣村勝利氏）と共催で、クビアカツヤカミキリの早期発見、早期対策につなげることを目的とした研修会を開催し、町内生産者や関係者など57名が参加した。

研修会では講師として、株式会社ニッソーグリーンの丸 章彦氏及び県果樹試験場うめ研究所の井沼主任研究員並びに裏垣研究員をむかえ、県外のクビアカツヤカミキリ多発地域の実状や効果的な防除法、本害虫以外の病害虫に関する講義が行われた。

講義を受けた参加者からは、生産者のみではなく、地域が一体となって対策を進めていく必要性を感じたという声があった。

クビアカツヤカミキリの被害拡大を防ぐためには、幼虫の掘り取りやネット被覆、伐採・伐根に加え、夏期の薬剤散布などの対策を組み合わせ早期から取り組んでいく必要がある。当課では、引き続き、関係機関と協力しながら防除対策指導を強化していく。



クビアカツヤカミキリ対策方法を聞く生産者



クビアカツヤカミキリの標本を観察する生産者

4. 農トレひだか第3回セミナーをひなたの杜で開催

3月24日、農業水産振興課は鳥獣害対策を目的にひなたの杜（田辺市上芳養）において、農トレひだか第3回セミナーを開催し、青年農業士2名と4Hクラブ員1名の計3名が参加した。

代表の湯川俊之氏を講師に招き、ひなたの杜設立までの経緯や捕獲した個体の処理方法などの説明を受けた。

会員からは、個体処理のコツやシカやイノシシを捕獲した際、どうすればひなたの杜に回収してもらえるのかなどの質問があった。



ひなたの杜の取組を聞く参加者



解体作業を見学する参加者

VI 西牟婁振興局

1. 普及指導協力員との意見交換会を開催

農業水産振興課では、地域農業の課題解決に向け、効果的な普及指導活動を行うことを目的として、3月13日、普及指導協力委員との意見交換会を開催した。

当課各担当者から、普及指導計画の重点プロジェクトと一般課題3課題の令和7年度活動実績や西牟婁農業プロジェクト協議会の活動内容として、ウメ「南高」の着果安定対策やスモモのジョイント栽培実証試験、クビアカツヤカミキリ対策、ウメの消費PR活動について説明した。

委員からは、「ウメは近年、高温等により不作が続いている。着果数を増やすためにも、摘心栽培は有効であると思う」や「第三者継承についての支援を拡充してほしい」、「紀の川市では、受入れ体制が整備され、イチゴの新規就農者が増えている。当地域でも新規就農者の受入れ体制整備にもっと注力すべき」等、多くの意見を頂き、有意義な意見交換が行われた。



意見交換会の様子

2. スモモジョイント栽培の連結処理講習会の開催

西牟婁管内のスモモ栽培は、老木化や棚資材の老朽化等から改植及び設備の更新が必要となっている。そこで農業水産振興課では、早期成園化や管理作業の省力化につながる新樹形であるジョイント栽培の実証ほを設置し、その効果を検証している。

これまで田辺市新庄町において「太陽」（今年度7年生樹）での継続調査を行ってきたが、今回新たに主力品種である「大石早生」と「ソルダム」のジョイント栽培実証（各6樹の連結ユニット）のため、令和7年12月10日に田辺市下三栖において1年生苗木を植栽し、新たな実証園を設置した。

1年生時にジョイント連結するため、令和8年3月5日に接ぎ木研修会を開催し、振興局・JA営農指導員10名が参加した。講師は、接ぎ木技術に優れる指導農業士の平岩義浩氏に依頼し、ジョイント（主枝部を連結するための接ぎ木）について実技講習を受け、樹の連結処理を行った。

平岩氏から、各樹の主枝が水平になるような位置で、寄せ接ぎのように接ぎ木面が密着するよう平らに削ることが重要とのアドバイスを受けた。

今後は、「太陽」の継続調査とともに「大石早生」「ソルダム」の側枝育成を図るための枝梢管理実施によるジョイント樹形の早期完成を目指す。



スモモ連結処理講習会

Ⅶ 東牟婁振興局

1. イチゴの収穫及びパック詰め体験を実施

3月12日、勝浦小学校3年生29名が那智勝浦町下里において、イチゴの収穫及びパック詰め体験を行った。この取組は、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）が中心となり、地産地消推進活動の一環として開催している。

圃場主の太田喜文氏、太田美保氏が収穫と出荷方法について説明を行い、県オリジナル品種であるまりひめを栽培しているハウスで児童たちがパックいっぱい収穫し、そのパックにフィルムと那智勝浦町いちご生産組合のシールを貼るところまでを体験した。

児童からは収穫やパックにうまく詰める方法、ミツバチに関する質問などがあった。

今後も食育活動を実施し、児童たちが食や農業への関心を持つ機会となるよう継続して取り組んでいく。



収穫方法を聞く児童たち



パック詰めを体験する様子

2. 北山村でじゃばら幹腐病対策技術実証ほを確認

北山村の特産物であるじゃばら園地において広く幹腐病の発生が認められている。発生園地では樹体の衰弱、収量の減少などを招き深刻な被害となっている。そこで、農業水産振興課では、じゃばらの幹腐病対策を行う技術実証ほを設置することで技術の普及を図っている。

3月16日、当課で北山村大沼に設置している実証ほにて幹腐病の発生量調査を行った。実証ほではワイヤーブラシによる発生部位の削り取り、IC ボルドー2 倍液の局所散布を行っているが、処理前に比べて発生カ所数は減少しており、処理の効果が認められた。収量は、強間伐を行ったため減少していたが、今後、樹容積が拡大することで増加するものと考えられる。

当課では、今後とも、関係機関と連携を密にし、幹腐病防除による樹の健全化に加え、作業性に優れた低樹高栽培を推進し、果実の安定生産につなげていく。



調査の様子

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489